

◆シン・文殊グループに込めた願い(塾生の皆さん、メンター教員の皆さんへ)

事業統括 堤 宏守

『文殊』とは、『仏教の菩薩(ぼさつ)。(中略)普賢(ふげん)が慈悲を表すのに対し、智慧(ちえ)を表し、釈迦の左の脇士^{※1}』であり、この説明にもあるように智慧(ちえ)の象徴とされています。そこから『三人寄れば文殊の知恵』(凡人でも三人集まって相談すれば、思いがけないよい知恵が浮かんでくる。)という日本のことわざが生まれました^{※2}。同じような意味のことわざは、英語では『Two heads are better than one.』、中国語では『三箇臭皮匠、頂箇諸葛亮(へばな靴屋も三人寄れば諸葛孔明)』というものがあります^{※2}。

※1 百科事典マイペディア 平凡社

※2 北村孝一編 ことわざを知る辞典 小学館

このプロジェクトの『シン・文殊グループ』は何を目指しているのでしょうか。

博士後期課程あるいは博士課程に在籍している皆さんは、それぞれが自分の専門領域を持ち、日々研究にいそんでいることと思います。それはそれで素晴らしいことです。でも、ちょっと立ち止まって考えてください。今、自分が専門としている領域のことしか、見ていない、あるいは、気づいていないとすると、何か足りないものを感じませんか。他にも興味深い領域や大きな意義のある領域があるかも知れない。そんな気持ちを『シン・文殊グループ』における活動では大切にしたいと考えています。

シン・文殊グループでは、専門領域や学年の異なる3人が1つのグループとして活動します。

最初は自己紹介、自分を他のメンバーに知ってもらうことに務めてください。

次に専門領域の異なるメンバーに自分の専門(研究内容)を説明します。他のメンバーは、その説明に対して様々な角度から質問するなどして、相手(行っている研究も含め)を理解してください。

そして、自分とグループメンバー、それぞれの強みを把握してください。

それを踏まえて、異なった分野が融合して実施する研究テーマを提案してください。もちろん実際に研究を進めてもらうことが重要です。しかしながら時間の制約などもあるでしょうから、その研究テーマの実現可能性を調査、グループ内で議論する、という形でもかまいません。文献調査等を通じて、提案する異分野融合研究の可能性を精査してください。

このような活動が一段落したところで、他のシン・文殊グループとの交流会や研究発表会を予定しています。他のグループの提案などにも興味を持って傾聴してください。あるいは、他のグループとの共同研究に発展してもかまいません。

シン・文殊グループにおける一連の活動は、自分の専門分野を極めるためには無駄な時間であると思っている人や指導教員がいるかも知れません。

こう考えてみてください。このグループ活動は、仕事の内容やテーマなどが変わっても普遍的に必要なスキル(トランスファラブルスキル^{※3})を育成することを目指しています。

今、皆さんが没頭している専門分野が、将来、本当に生き残りますか？

自分の専門分野が世の中から必要とされなくなった時、何をよりどころにして、次の仕事をしますか？

そう考えてみてください。

また、いろいろな分野に対する知的好奇心を絶やさずに持つことの重要性についても、もう一度考えてみてください。

宇宙で最も強い力は、幅広い興味である。 アルベルト・アインシュタイン

※³ トランスファラブルスキル：別の職場への異動や転職をした場合、そこで転用・応用できるスキルを指す言葉。トランスファラブルスキルには、大きく分けて、多様な情報の中から課題を捉え、仕事の段取りを組み立てて実行する「対課題スキル」、課題に対して主体的に取り組み、成果を上げるために自らをコントロールする「対自己スキル」、チームでのコミュニケーション力や交渉力など、仕事で成果を出すための人間関係を構築する「対人スキル」の3つがある。

【参考】シン・文殊グループでおこなう活動とトランスファラブルスキルとの対応表

実施内容	対課題スキル	対自己スキル	対人スキル
自己紹介		◎	○
自分の研究を相手に分かってもらう		○	◎
自分の強み・相手の強みを把握する		◎	◎
異分野融合型研究を発想・提案	◎	○	○

◆実際の活動について(塾生向け)

1. オンライン会議形式で実施します。

- (1) Webex のライセンスを付与するので、これを使えるようにしてください。(使い方などは、Webex のホームページ(https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/solutions/webex/how-to-use.html)などを参考にしてください。)
- (2) 実際の活動は、オンラインで結構です。必ず録画を残しておいてください。(代表者を決めて、その代表者の PC に残すようにしてください。クラウドには録画しないでください。)
- (3) 活動の目安は、少なくとも 1 ヶ月に 1 度(1~2 時間程度)とします。もっと頻繁に行ってもかまいません。
- (4) なお、最初は仮のグループ代表をこちらから指名します。その人が、最初のグループ会議を主催してください。最初の会議で、グループの代表を決めたら、事業統括(tsutsumi@yamaguchi-u.ac.jp)まで連絡をください。各グループの代表を通じて各種連絡をすることがあります。

2. 活動の進め方

- (1) グループのメンバー同士、お互いを知らないなので、自己紹介から始めてください。
- (2) 各グループの代表を決めてください。第 2 回目以降は、代表がグループ活動の日程調整などを実施してください。
- (3) 自分の研究について紹介をしてください。全く分野の異なるグループメンバーにも分かるように説明してください。
- (4) 説明を聞いた後、各自質問などをするので、発表者の研究内容を理解してください。また、発表者は全く異なる分野を背景としている相手が内容を理解できるように分かりやすく説明してください。
- (5) 3 人の自己紹介や研究紹介、それに伴う質問などを実施、これらを通じて、お互いの強みなどを把握・理解してください。
- (6) お互いの強みの把握・理解やそれぞれの研究の背景などを理解した後、この 3 人で、何か異分野融合研究が提案できないか、議論してください。誰かの研究をベースにして、それに違った立場からの視点に基づいて検討する、全く新しいことを 3 人で考え出す、など、様々な方法があると思います。これらを考え出す方法を探すことも重要なグループ活動です。いろいろと工夫してみてください。
- (7) (1)~(5)の活動の際には、各グループのメンター教員にもグループ活動に参加してもらってください。メンター教員の人には、グループの 3 名とは違った立場からの助言をしてもらえると思います。
- (8) (5)の活動を通じて、考え出された異分野融合研究テーマの重要性・意義・実現可能性・将来性について文献調査などに基づいて、説明できるようにしてください。グループ同士の発表会(2022年3月開催予定)では、これを、それぞれのグループから発表してもらいます。
- (9) 今年度は、(7)までの活動までと考えています。次年度以降も塾生として参画する人は、今年度の活動を通じて学んだことを活用し、新メンバーでのグループ活動を続けます。

◆実際の活動について(メンター教員向け)

1. メンターとしての活動方針について

- (1) メンター教員の方は、自分の指導学生では無い学生(他分野、他専攻、他研究科)を知る機会ですので、是非、グループの活動の積極的に参画してください。ご自身の指導学生に対して別の教員がメンターとして助言している、ということ意識し、誠意を持って対応をお願いします。(ここは特に強くお願いします。)
- (2) 一方、グループの活動に対して、過干渉にならないようにお願いします。(1)とやや矛盾するかも知れませんが、学生の自主性を伸ばすようにご配慮ください。(助言を中心をお願いします。)
- (3) グループの活動が方向性を失って迷走しそうな場合は、メンターの立場から、少し強めに指導していただくかまいません。

2. 各グループの活動について

- (1) 各グループでは、オンライン会議(Webex)を中心に活動を行うので、これに参加してください。
- (2) オンライン会議の開催案内は、グループの代表から連絡させる予定です。
- (3) 必要な場合は、メンターの方が主催で、オンライン会議を開催していただいてもかまいません。その際は、録画をするように学生に促してください。(後ほど、グループの活動の確認に使用します。)
- (4) メンターの方が、他の方(例えば、企業関係者など)を臨時に招いて、グループ内の学生に話をさせていただく、といった活動をお考えの場合は、事業統括までご相談ください。
- (5) (4)について、他のグループの学生にも聴講させたい、といった場合にも事業統括にご相談ください。他グループへの広報などを実施します。